

前号では「モバイルファースト」について触れ、それに伴い二つの対策があることを述べた。一つはスマホ用のウェブサイトを制作すること、もう一つは「レスポンスシブウェブデザイン」でHP制作を行うという二つの対策である。本号では「レスポンスシブウェブデザイン」について取り上げたい。

## インターネット 第130回

# 徹底集客

「レスポンスシブウェブデザイン」についてもさまざまな解釈定義があるが、ここでは「一つのウェブサイトで、パソコン、タブレット、スマホなどの複数の異なる画面サイズに応じてウェブサイトのレイアウト・デザインを調整して表示すること」とする。つまり、お客さまがアクセスする端

末により、ウェブサイトに見えやすい画面サイズに自動的に最適化されるのである。

レスポンスシブウェブデザインは、更新メンテナンスが非常に簡単になることである。例えば、料理の写真を差し替える場合、従来はパソコンサイト、スマホサイトそれぞれで更新作業をしなければならぬが、レスポンスシブウェブデザインであれば、一回の更新で完了できる。更新の煩わしさが減り、サイトごとの更新漏れもなくなる。

逆にデメリットは「スマホで読み込んだ際に重くなる」「モバイル中心の設計になるので、デザイン性の自由度が損なわれる」といったものがあつたが、これらは現在技術の進歩によりほぼ解消されている。

また、何といっても検索エンジン最大手のGoogleが公式に「Googleでは、デザインパターンとしてレスポンスシブデザインを推奨しています」と表明していることも大きい。これらのことが示すように、今後はレスポンスシブウェブデザインが主流となっていくことが想定されるので、モバイルへの未対応やHPのリニューアルを考えられているようであれば、レスポンスシブウェブデザインによる制作をお薦めしたい。

（株式会社アビリティコンサルタント・株式会社ブライムコンセプト 的場弘明）

## HPの最新トレンド(レスポンスシブウェブデザイン)

「URLの統一化が図れる」など、やはり一体化によるメリット享受が大き

|| 隔週掲載